

2018年度課題発見ゼミナールガイダンス
山口裕之(国際教養コース)クラス

言語について考える

言語と文化

授業の目的

- あるテーマに対する「論文・レポート」の書き方を実践的に練習する。
 - 共同作業の中での合意形成のスキルを身につける。
 - 説得的なプレゼンテーションを行う。
- ◆基本的に文献調査法の習得を目的としていますが、必要に応じて学外の見学なども行うかもしれません。

授業の流れ

佐藤裕先生、熊坂先生と合同

① 10月（テーマの理解・文献検索）

- テーマについての導入講義。
- 一つのテーマについて、関連する重要文献を、論文検索サイトなどを利用してリストアップする。

② 11月（課題設定）

- リストアップした複数の資料を調べ、比較検討することで、「問う価値のある問題」を把握する。

③ 12月（課題解決）

- 把握した「問題」を解決するために必要な文献をリストアップし、比較検討する。

④ 1月（原稿の推敲）

- 「先行研究のレビュー→問題提起+仮説→検証→結論」という構成で発表原稿を作成する。

⑤ 2月上旬：発表会

佐藤裕先生、熊坂先生と合同

具体的な作業内容

① まずは、文献調査

- 単に「読みました」では頭に入りません。
- 「読書ノート」を作成し、要点をまとめる。
- まとめた内容を、グループ内で報告する。
- 基本的な知識・情報を共有する。

② そのあとは、グループワーク

- 課題についての合意形成。
- 原稿の作成。

③ 最後に、発表会。

- 他のグループの発表を「評価シート」で相互評価。

テーマの説明

• 「言語と文化」

– 「エスキモー語には、雪を表す多数の言葉があり、エスキモーの人たちはわれわれとは違った仕方で雪を知覚している。」

➤ 本当？

- 言葉が違ってても、見えるものは同じでは？
- そもそも、言語はそれほど違わないのでは？
- でも、違う部分もあるよね。

➤ 言語や文化についての「相対主義的主張」と「普遍主義的主張」の対立。(哲学、言語学、心理学、文化人類学など)

考えられる具体的なテーマ

- 言語は、知覚に影響を及ぼすのか？及ぼすとしたら、具体的にはどのような影響だろうか？
- 「消滅の危機に瀕する言語」がたくさんあるが、それは何が問題だろうか？どうすればよいだろうか？
- そもそも、「一つの言語」とはどうやって決まるのだろうか？阿波弁も土佐弁も「日本語」。では琉球語は？
 - などなど、自分たちで具体的な「課題」を発見して、それについて論証してください。

夏休みの読書課題

- 2か月の夏休みに、課題を決めて(少しは)勉強しましょう。「3冊」が目安。
 - 山口裕之『人間科学の哲学』勁草書房
 - 山口裕之『認知哲学』新曜社
 - 井上京子『もし右や左がなかったら』大修館書店
 - 今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
 - 田中克彦『ことばと国家』岩波新書
 - ウォーフ『言語・思考・現実』講談社
 - コール&スクリブナー『文化と思考』サイエンス社
 - トマセロ『心とことばの起源を探る』勁草書房
 - レイコフ『認知意味論』紀伊国屋書店
 - ドイツチャー『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』インターシフト
 - ピンカー『言語を生み出す本能』NHK
 - ブラウン『ヒューマン・ユニヴァーサルズ』新曜社

- クラスに配属された方には、「読書ノート」のワードファイル、「評価シート」の見本などをメール(教務システム)で送信しますので、受け取ってください。